



一心寺のジャカラндаと和気清麻呂の河内川開削地を巡る（報告）

日 時 2024年6月20日（木）
集 合 10時30分 JR天王寺駅 改札口
行 程 JR 天王寺駅～竹本義太夫誕生地碑～和気清麻呂開削地～谷の清水・地藏尊～超願寺・竹本義太夫墓～四天王寺～茶臼山登頂・川底池～昼食～一心寺～清水寺～大阪星光学園内料亭浮瀬跡 ～家隆塚～大阪メトロ四天王寺夕陽丘駅 解散 歩行時間約4時間
参加者 25名

天王寺駅を出発して谷町筋を歩く。直ぐに道が大きく窪んでいるのがわかる。和気清麻呂が23万人の労働力を動員した開削地跡だ。工事は完成せずに中断する。あともう少しで大阪湾と思うが、大変な工事だっただろう。谷の清水は今もこんこんと水が湧き、地元の方々が丁寧に管理されている。四天王寺の西門で記念撮影。彼岸の中日には西門石鳥居の向こうに夕陽が沈み、「日想観」という法要が行われている。



谷の清水・地藏尊



四天王寺西門 東から



西門石鳥居 扁額

標高26mの茶臼山を登頂し、川底池を周る。蓮や半夏生が美しい。大きなアオサギが人懐っこいのに驚きです。昼食後は、今日の目玉の一つ、一心寺のジャカラндаを鑑賞。南米原産の花で、葉は綺麗な2回羽状複葉で花はラッパ状で紫色、南国らしい鮮やかさです。森海のメンバーは種も観察していましたよ。



川底池



半夏生



ジャカラнда

真田信繁（幸村）終焉の地・安居神社から上町大地西側の海食崖の高さを体感しながら階段を下りる。清水寺は、京都の清水寺と同じように「玉出の滝」があり、「清水寺舞台」もありました。大阪星光学園敷地内の料亭「浮瀬亭」跡で芭蕉や蕪村の句碑を見る。2023年10月に森海で歩いた暗峠（急勾配）を元禄7年（1694）芭蕉も歩き、浮瀬亭で大々的に句会を開き、その後大阪市内で亡くなっている。

芭蕉がこの地で詠んだ句を記します。

暗峠を歩いた時の句	「菊の香に　くらがり登る　節句かな」
浮瀬亭での発句	「此の道や　行く人なしに　秋の暮れ」
辞世の句と言われている句	「旅に病んで　夢は枯野を　かけ廻る」



天神坂



浮瀬停跡 歌碑



家高塚

最後に史跡「家隆塚」を見ました。歩いた坂は、逢坂、天神坂、清水坂、愛染坂、口縄坂です。またいつか、このコースを夕陽が沈む頃歩いてみたいと思いました。

見どころが盛り沢山の活動でした。暑かったですが薄曇りの天気、丁度よい加減な歩行距離だったのでないでしょうか。お疲れ様でした。

担当：Aグループ 案内 福嶋昭 記録 山本